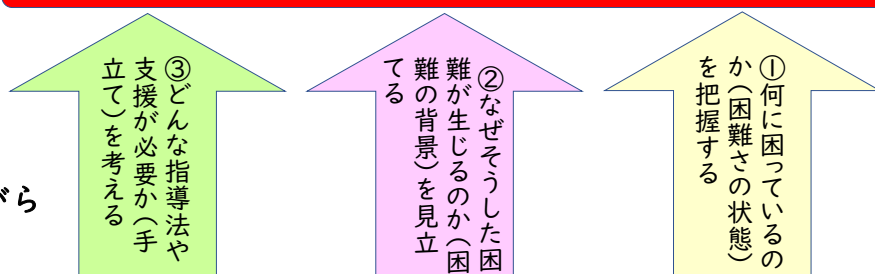


■通級による指導におけるICT活用について

令和4～6年度に県教委から「通級による指導におけるICT活用研究事業」の指定を受け、推進センターでは、「指導に関すること」に焦点化し、先進校視察で学んだ特別支援教育において「苦手な部分を支える発想」を大切にしながらICTを活用しています。児童生徒が情報の入力・処理・出力のどの部分に課題があるのかを見極め、支援するための1つの方法としてICTの活用を積極的に行っています。

通級指導担当者は、児童生徒が、①何に困っているのか（困難さの状態）を把握し、②なぜそうした困難が生じるのか（困難の背景）を見立て、③どんな指導法や支援が必要か（手立て）を考え、必要に応じてICTを活用しています。また、個々の特別な教育的ニーズに対応できるよう、推進センター内でのICT活用実践交流会等で情報共有しながら指導力向上を目指し、日々切磋琢磨しています。

困難さを支援する効果的な方法の1つとしてICTを活用する



日々の指導の中で「苦手な部分を支える発想」

■ICTを活用した具体的取組 (R5.1.12 実践発表会にて紹介予定)

推進センターでは、主に、自作の教材を活用する際は「Windows」「iPad」「Chromebook」、アプリを活用する際には「iPad」、情報共有や教科書の読みを支援、サイトへのアクセスを支援する際には「Chromebook」というように、通級指導担当者が端末の強みを生かし、状況に応じて使用しています。

(1) 読み書きに困難さがある児童生徒の「読み」をサポートするために

①PowerPointによるフラッシュカード化【Windows】

②PowerPointによる読み上げ音声の活用【Windows】

③アプリを活用して音韻認識の向上【iPad】

④アプリを活用して文字から音を想起する力の向上【iPad】

⑤アプリを活用して音韻認識力の更なる向上【iPad】

⑥音声教材による教科書の読みを支援【Chromebook】【Windows】【iPad】



推進センターイメージキャラクター
「つーきゅーず」

(2) 読み書きに困難さがある児童生徒の「書き」をサポートするために

①家庭学習にアプリを活用【iPad】【Chromebook】

②動画視聴による漢字学習【Chromebook】

③作文学習にアプリを活用【iPad】

④通級新聞作成に Microsoft Word を活用【Windows】

推進センター実践発表会

については、ご案内または

HP をご覧ください。

■成果と課題

(成果)・学習アプリを活用し、目や耳などの感覚を使って活動することは、楽しみながら学習することに繋がっている。また、抵抗なく反復練習ができている。

・自分でICTの操作ができ、正誤の確認がすぐにできるので、学習意欲が高まってきている。

・ICTを活用することにより、個々の課題が解消され、集中して取り組むことができるようになっている。

・PowerPointの自作教材作成に時間と手間がかかるが、蓄積していけば次年度も活用できる。

(課題)・指導の方略としてアプリの活用が、より有効になるための分析をしていく必要がある。

・児童生徒が使用しているChromebookの機能の活用方法を、更に探っていく必要がある。

・通級指導教室でのICT活用の実践を、在籍校や保護者と情報共有し、学級や家庭でも有効活用できるようにしていく必要がある。

■まとめ

○読み書きの困難さをサポートするために、ICTを活用した指導法や教材が蓄積されている。

○機器の長所を生かしたICT活用は、特別な教育的ニーズの手段や指導法に効果的である。

※令和5年1月12日(木)15:00~16:45「津山市特別支援教育推進センター実践発表会」にぜひご参加ください。